

クモマベニヒカゲ

Erebia ligea takanonis Matsumura

チョウ目ジャノメチョウ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

生息地域は標高1,900m以上に限定され、白山は国内分布の西限である。

形態

開張45mm前後の小型種。前後翅表裏とも黒褐色で、前後翅表裏とも外縁に橙色の太い帯があり、その中に黒点がある。さらに後翅裏面の橙色の帯の内側は白帯で縁取られている。

国内分布

北海道と本州の高山帯に分布し、本州では八ヶ岳山塊、北アルプス、中央アルプス、南アルプス、白山の標高1,600~2,800mに分布し、白山は分布の西限になっている。

県内分布

白山の清浄ヶ原~北龍ヶ馬場、甚之助小屋~弥陀ヶ原、観光新道馬背~黒ボコ岩、釈迦岳周辺、別山周辺など、多くは標高1,900m前後から上に生息している。

生態

年1回発生し7月中旬から8月下旬にかけて発生する。草原が切れて断崖になる所や、山稜近くの急斜面の草付き、樹木が隣接する小さな草原などに生息する。通常は1,900m以上で観察されるが、時として谷筋に沿って下ってきたと思われる個体が、やや低い地点で観察されている。1年目は卵、2年目は幼虫で越冬し、3年目に蛹化し羽化する。食草は、イネ科、カヤツリグサ科が知られている。

生息地の条件

標高1,900m以上で、断崖際の草原、山稜近くの急斜面の草付き、樹木が隣接する小さな草原。

生存の危機

生息地は、全て白山国立公園の特別保護地区に包含されているので、生息環境は保護されている。しかし、発生地のすべてが特別保護地区内にあることなどから、十分な調査は行われていないために、現在の生息状況は不明である。(A)

特記事項

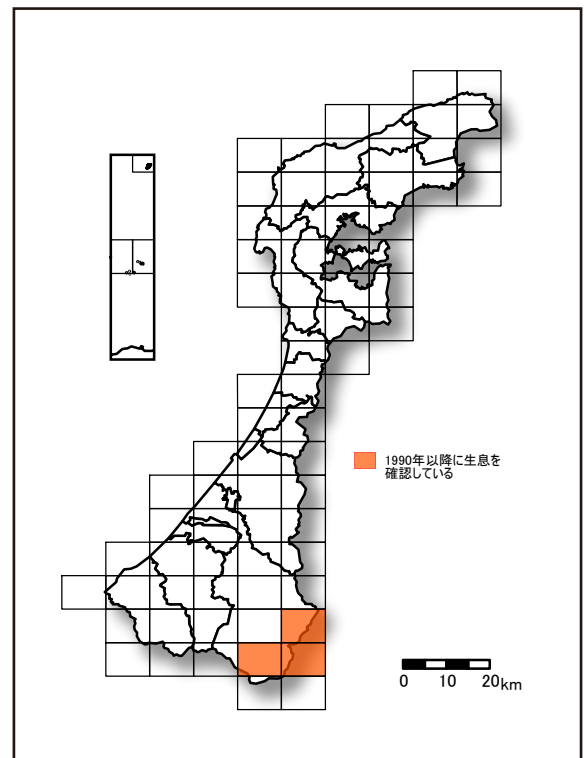
国内のいずれの生息地も隔離され個体群も小さいので、地理的変異が進み、分布西限の白山個体群の存在は重要となる。

参考文献

福田晴夫ほか 1984. クモマベニヒカゲ. 原色日本蝶類生態図鑑 (IV) : 88-91. 保育社. 大阪.



写真提供者: 松井正人



県内の分布